

戦後のこれまでの主な国語審議会答申等

1. 漢 字

- 昭和21.11 当用漢字表 (答申)
 22. 9 当用漢字音訓表 (答申)
 当用漢字別表 (答申)
 23. 6 当用漢字字体表 (答申)
 26. 5 人名漢字について (建議)
 47. 6 当用漢字改定音訓表 (答申)
 56. 3 常用漢字表 (答申)
 平成12.12 表外漢字字体表 (答申)

2. 仮名遣い

- 昭和21. 9 現代かなづかい (答申)
 61. 3 改定現代仮名遣い (答申)

3. 送り仮名の付け方

- 昭和33.11 「送りがなのつけ方」について (建議)
 47. 6 改定送り仮名の付け方 (答申)

4. 外来語の表記

- 昭和29. 3 外来語の表記について (術語・表記部会報告)
 平成 3. 2 外来語の表記 (答申)

5. 敬 語

- 昭和27. 4 これからの敬語 (建議)
 平成12.12 現代社会における敬意表現 (答申)

6. 国 語 一 般

- 昭和29. 3 標準語のために (標準語部会報告)
 31. 7 話しことばの改善について (建議)
 正書法について (報告)
 47. 6 国語の教育の振興について (建議)
 平成 5. 6 現代の国語をめぐる諸問題について (報告)
 言葉遣いに関すること
 情報化への対応に関すること
 国際社会への対応に関すること
 国語の教育・研究に関すること
 表記に関すること
 12.12 国際社会に対応する日本語の在り方 (答申)
 日本語の国際化を進めるための方針
 外来語・外国語増加の問題
 姓名のローマ字表記の問題

文化審議会 (国語分科会) 【平成13年1月6日付け設置】 答申等

14. 2 これからの時代に求められる国語力について (諮問)
 16. 2 これからの時代に求められる国語力について (答申)
17. 2 国語分科会で今後取り組むべき課題について (審議経過報告)
 17. 3 文部科学大臣諮問
 ○ 敬語に関する具体的な指針の作成について
 ○ 情報化時代に対応する漢字政策の在り方について

平成16年度「国語に関する世論調査」の結果の要点

文化庁では、施策の参考とするため、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施している。平成16年度は、言葉の使い方に関する意識、敬語に関する意識等、漢字についての意識のほか、手書きによる表記とパソコン・ワープロ等による表記についての意識や、今後の手紙のあるべき作法についての意識も調査した。また、例年取り上げている、慣用句等の意味の理解や使用についても調査を実施した。

報告書は独立行政法人国立印刷局から市販する。

I 調査目的・方法等

調査目的：言葉の使い方に関する意識、敬語に関する意識、漢字についての意識、手書きによる表記とパソコン・ワープロ等による表記についての意識や今後の手紙のあるべき作法についての意識等を調査し、国語施策を進める上での参考とする。

調査対象：全国16歳以上の男女3,000人

調査時期：平成17年1月14日～2月7日

調査方法：個別面接調査

回収結果：有効回収数（率） 2,179人（72.6%）

調査不能数（率） 821人（27.4%）

II 調査結果の概要

1 言葉の使い方に関する意識

言葉や言葉の使い方について、どの程度気を遣っているかを尋ねた。「気を遣っている」「ある程度気を遣っている」及びその二つを合わせた「気を遣っている（計）」の割合を、平成9年度調査の結果とともに示すと、以下のとおり。

	気を遣っている	+	ある程気を遣っている	=	気を遣っている（計）
平成16年度	9.5%	+	61.0%	=	70.6%
平成9年度	7.9%	+	59.4%	=	67.3%

全体として見ると、「気を遣っている」と「ある程度気を遣っている」とを合わせた「気を遣っている（計）」は70.6%で7割を超えている。平成9年度調査と比べると、「気を遣っている（計）」は3.3ポイント増加している。

年齢別に見ると、男性の40代と女性の40～50代で「気を遣っている（計）」が8割前後となっているが、女性の16～19歳では、5割で、ほかの性・年代に比べ低い。

2 敬語に関する意識

(1) 敬語に関して困っていること

敬語の使い方に関して、困っていることや気になっていることを尋ねた。(幾つでも選択可。) 10の選択肢のうち、性・年齢別に見て顕著な傾向が見られるものについて結果を示すと次のとおり。

(数字は%)

	正しい敬語を使っているか自信がない	周りの人が使っている敬語の使い方が気になる	テレビ等の出演者の敬語の使い方が気になる	正しい敬語の使い方が分からない	知らない敬語がたくさんある	特に困っていることや気になっていることはない
総数	37.1	26.7	24.2	20.1	15.4	27.8
男性・16～19歳	46.7	8.9	6.7	33.3	35.6	35.6
20～29歳	40.4	16.9	14.6	38.2	32.6	16.9
30～39歳	53.8	19.9	17.3	23.7	23.7	19.2
40～49歳	37.6	29.1	19.1	22.0	19.9	23.4
50～59歳	35.4	32.3	25.5	18.2	15.1	27.6
60歳以上	18.9	30.1	28.7	10.0	7.8	40.7
女性・16～19歳	34.2	13.2	23.7	23.7	23.7	36.8
20～29歳	59.5	25.2	12.6	44.1	19.8	10.8
30～39歳	49.8	21.5	19.5	21.5	11.7	22.9
40～49歳	50.7	29.7	28.8	24.7	17.4	14.6
50～59歳	36.5	37.8	32.6	16.7	11.6	22.7
60歳以上	26.1	23.3	26.6	14.3	12.5	39.4

「正しい敬語を使っているか自信がない」は、男性の30代と女性の20～40代で5割を超えている。「周りの人が使っている敬語の使い方が気になる」「テレビ等の出演者の敬語の使い方が気になる」は、男性では若年層に比べ50代(32.3%)、60歳以上(30.1%)が他の年代よりも高い。また、女性では50代(37.8%)が最も高い。「正しい敬語の使い方が分からない」は、男女とも20代で最も高く、4割前後となっている。「知らない敬語がたくさんある」は、男女とも年齢が低いほど割合が高くなる傾向が見られる。「特に困っていることや気になっていることはない」は、男女とも60歳以上(ほぼ4割)と16～19歳(3割強)とで高くなっている。

(2) 敬語の使い方の間違いの増加

敬語の使い方に間違いが多くなってきていると思うかを尋ねた。結果は以下のとおり。(「分からない」は省略。)

そう思う	43.0%	} そう思う(計)	81.0%
少しそう思う	38.0%		
余りそう思わない	11.0%	} そう思わない(計)	15.4%
そう思わない	4.4%		

(3) どのような間違いが多いと思うか

敬語の使い方に間違いが多くなってきていると思うかについて、「そう思う」「少しそう思う」と答えた人に、どのような間違いが多いかを尋ねた。(幾つでも選択可。) 結果は次のとおり。(「分からない」は省略。)

尊敬語, 謙譲語, 丁寧語の使い方が間違っている	55.2%
敬語が必要な場面なのに敬語が使われていないことが多い	51.1%
敬語が不必要な場面なのに敬語を使っていることが多い	35.6%
二重敬語などの過剰な敬語を用いた表現が多い	25.1%

性・年齢別の結果は、以下のとおり。

(数字は%)

	尊敬語, 謙譲語, 丁寧語の使い方が間違っている	敬語が必要な場面なのに敬語が使われていないことが多い	敬語が不必要な場面なのに敬語を使っていることが多い	二重敬語などの過剰な敬語を用いた表現が多い
男性・16～19歳	62.5	56.3	12.5	9.4
20～29歳	56.3	46.5	25.4	31.0
30～39歳	63.2	49.6	28.6	24.1
40～49歳	63.1	51.4	33.3	21.6
50～59歳	49.7	52.8	45.9	20.1
60歳以上	46.9	50.9	35.4	19.9
女性・16～19歳	48.1	70.4	14.8	25.9
20～29歳	61.5	50.0	30.2	34.4
30～39歳	57.2	41.6	34.7	34.1
40～49歳	66.0	53.8	32.5	27.4
50～59歳	59.6	51.4	42.3	26.9
60歳以上	45.0	53.5	40.8	23.4

「尊敬語, 謙譲語, 丁寧語の使い方が間違っている」は、20代～40代で6割前後になっている。「敬語が必要な場面なのに敬語が使われていないことが多い」は女性の16～19歳で最も高く、7割を超えている。「敬語が不必要な場面なのに敬語を使っていることが多い」は、若年層に比べ高齢層で高くなっている。

(4) これからの敬語の在り方

これからの時代の敬語の在り方について、次の二つの考え方を示し、どちらの考えに近いかを尋ねた。平成16年度調査と平成9年度調査※の比較を行うと、以下のとおり。

	平成9年度*	→	平成16年度
(a) 新しい時代にふさわしく、敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ			
(b) 敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ			
(a)の考え方に近い	41.4%	→	33.6%
(b)の考え方に近い	46.9%	→	53.6%
どちらとも言えない	10.2%	→	11.0%
分からない	1.4%	→	1.8%

*平成9年度調査では「(a)敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ」

「(b)敬語は美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」

(a)の「簡単で分かりやすいものであるべきだ」の考え方に近いと答えた人が7.8ポイント減少し、(b)の「豊かな表現が大切にされるべきだ」の考え方に近いと答えた人が6.7ポイント増加している。

性・年齢別の結果を、平成9年度調査と比較すると、以下のとおり。

(数字は%, ()内は平成9年度調査)

	(a) 新しい時代にふさわしく、敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ	(b) 敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ
男性・16～19歳	51.1 (46.4)	26.7 (30.4)
20～29歳	31.5 (49.5)	47.2 (35.8)
30～39歳	37.8 (49.0)	48.7 (41.3)
40～49歳	33.3 (50.5)	53.9 (37.9)
50～59歳	44.8 (49.5)	47.4 (40.4)
60歳以上	26.2 (46.9)	59.9 (45.5)
女性・16～19歳	28.9 (41.7)	55.3 (39.6)
20～29歳	32.4 (32.1)	54.1 (54.9)
30～39歳	41.5 (34.8)	48.8 (56.5)
40～49歳	23.3 (38.3)	63.5 (49.6)
50～59歳	33.0 (35.0)	54.9 (51.9)
60歳以上	34.5 (34.6)	53.2 (52.3)

3 漢字に関する意識

漢字についての意識を尋ねた。平成16年度調査と平成14年度調査とを比較した結果は、以下のとおり。

	平成14年度	平成16年度
日本語の表記に欠くことのできない大切な文字である	71.0	70.9
漢字を見るとすぐに意味が分かるので便利である	60.5	58.3
ワープロなどがあっても、漢字学習はしっかりやるべきである	37.9	56.6
漢字の使い方については余り自信がない	22.1	41.3
日本語の表記を難しくしている文字である	11.5	9.2
漢字の使い方についてはかなり自信がある	8.9	8.2
ワープロなどがあるので、これからは漢字を書く必要は少なくなる	3.4	5.7
漢字を覚えるのは大変なので、なるべく使わない方が良い	3.9	3.5
分からない	3.5	1.8

平成14年度調査と比較すると、「ワープロなどがあっても、漢字学習はしっかりやるべきである」「漢字の使い方については余り自信がない」と答えた人が、それぞれ19ポイント増加している。特に、「ワープロなどがあっても、漢字学習はしっかりやるべきである」は今回5割半ばを超えており、漢字学習の必要性についての認識が高まっている。

4 表記に関する意識

四つの場合を示して、手書きをするかどうかを尋ねた。結果を示すと、以下のとおり。（「分からない」は省略。）

	手書きをする（計）	手書きをしない（計）
(1) はがきや手紙などのあて名	79.5%	14.0%
(2) 年賀状のあて名	65.1%	27.8%
(3) はがきや手紙などの本文	74.9%	15.1%
(4) 報告書やレポートなどの文章	45.8%	36.5%

四つの場合とも、「いつも手書きをする」「大体手書きをする」を合わせた「手書きをする（計）」は、「手書きをしたりしなかったりする」「余り手書きをしない」「全く手書きをしない」を合わせた「手書きをしない（計）」を上回っている。中でも、「はがきや手紙などのあて名」「はがきや手紙などの本文」では約4分の3以上の人が、「手書きをする」と答えている。

結果を、性別で見ると、以下のとおり。

		手書きをする（計）	手書きをしない（計）
(1) はがきや手紙などのあて名	男性	71.0%	21.3%
	女性	86.5%	7.9%
(2) 年賀状のあて名	男性	58.7%	34.8%
	女性	70.4%	22.1%
(3) はがきや手紙などの本文	男性	65.0%	22.6%
	女性	83.0%	8.9%
(4) 報告書やレポートなどの文章	男性	40.4%	44.3%
	女性	50.3%	30.1%

(1) から (4) のいずれの場合も、「手書きをする（計）」は女性の割合が高く、「手書きをしない（計）」は男性の割合が高くなっている。

5 今後の手紙のあるべき作法

手紙の書式及び手書きをすべきか否かについて、今後、手紙の作法はどうあるべきだと思いかを尋ねた。

手紙の書式について、結果を示すと、以下のとおり。

- (1) (a) 手紙の伝統的な書式を今後も守っていくべきである
 (b) 手紙の書式は伝統的な書式にこだわらなくてもよい
- (a)の考えに近い …… 39.3%
 (b)の考えに近い …… 38.1%
 どちらとも言えない …… 20.3%
 分からない …… 2.3%

年齢別に見ると、16～19歳、20代では、(b)の「伝統的な書式にこだわらなくてもよい」の割合が上回っている。30代では、(a)と(b)とが同水準。40代以上では、(a)「伝統的な書式を今後も守っていくべき」の割合が上回っている。

(数字は%)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
(a)の考えに近い	28.9	29.5	39.1	44.2	41.4	39.7
(b)の考えに近い	48.2	40.5	39.1	33.6	37.9	38.1
どちらとも言えない	21.7	27.0	20.8	21.1	19.8	18.0
分からない	1.2	3.0	1.1	1.1	0.9	4.1

手書きをすべきか否かについて、結果を示すと以下のとおり。

- (2) (a) 今後なるべく手書きで手紙を書くようにすべきである
 (b) 今後は手紙も手書きにこだわらないようにすべきである
- (a)の考えに近い …… 47.8%
 (b)の考えに近い …… 24.8%
 どちらとも言えない …… 25.4%
 分からない …… 2.0%

性別で見ると、(a)の「今後なるべく手書きで手紙を書くようにすべきである」に近いと答えた人は、女性では半数以上(52.4%)であるのに対して、男性では4割台(42.2%)である。一方、(b)の「今後は手紙も手書きにこだわらないようにすべきである」に近いと答えた人は、男性では約3割(30.8%)であるのに対して、女性では約2割となっている(19.9%)。

(数字は%)

	男性	女性
(a)の考えに近い	42.2	52.4
(b)の考えに近い	30.8	19.9
どちらとも言えない	25.5	25.4
分からない	1.6	2.3

6 慣用句の言い方

二つの言い方のどちらを使うか、三つの例を挙げて尋ねた。本来の言い方を使う人よりも、本来の言い方ではないものを使う人が多かったのは、「青田刈り」「汚名挽回」である。一方、本来の言い方を使う人が多かったのは、「伝家の宝刀」である。

- | | | | |
|-----|-----|--|-------|
| (1) | (a) | 会社が学生を 青田買 いする | 29.1% |
| | (b) | 会社が学生を 青田刈 りする | 34.2% |
| (2) | (a) | 前回失敗したので今度は 汚名挽回 しよう ^{ほんかい} と誓った | 44.1% |
| | (b) | 前回失敗したので今度は 汚名返上 しよう ^{ほんかい} と誓った | 38.3% |
| (3) | (a) | 知事は議会解散という 伝家の宝刀 を抜いた | 41.0% |
| | (b) | 知事は議会解散という 天下の宝刀 を抜いた | 25.4% |

太字が本来の言い方。

年齢別に見ると、「青田刈り」を使う人の割合は、20代以下では「青田買」よりも6～10ポイント低い。40代では「青田刈り」が「青田買」とほぼ同じ割合になり、50代、60歳以上では「青田刈り」が「青田買」よりも11～15ポイント高くなっている。

(数字は%)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
(a) 青田買	25.3	25.0	33.5	34.2	31.3	24.7
(b) 青田刈	14.5	19.0	27.4	33.9	41.9	39.5

「汚名挽回」を使う人の割合は、20代以下では「汚名返上」よりも9～39ポイント低い。30代で「汚名挽回」が「汚名返上」をやや上回り、40代～60歳以上で10～16ポイント高くなっている。

(数字は%)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
(a) 汚名挽回	22.9	30.5	45.4	50.0	48.7	44.0
(b) 汚名返上	61.4	49.0	43.2	34.2	35.5	34.0

「天下の宝刀」を使う人の割合は、すべての年代で「伝家の宝刀」を使う人の割合よりも低いものの、高年層ほど高くなる傾向が見られる。

(数字は%)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
(a) 伝家の宝刀	42.2	42.5	42.1	44.4	38.8	39.6
(b) 天下の宝刀	13.3	14.5	23.0	24.4	30.8	28.1

7 言葉の意味

三つの言葉を挙げて、どの意味で使っているかを尋ねた。全体の結果を示すと、以下のとおり。「他山の石」では本来の意味を選んだ人の割合が、本来の意味と異なる意味を選んだ人の割合よりも多いものの、「分からない」と同水準。また、「どちらの意味でも使わない」も2割を超えている。「枯れ木も山のにぎわい」では、本来の意味と異なる意味を選んだ人の割合が、本来の意味を選んだ人の割合よりもやや少ない。「世間ずれ」では、本来の意味を選んだ人の割合が5割以上。

(1) 他山の石	本来の意味	26.8%
	本来とは異なる意味	18.1%
	どちらの意味でも使わない	22.4%
	分からない	27.2%
(2) 枯れ木も山のにぎわい	本来の意味	38.6%
	本来とは異なる意味	35.5%
	どちらの意味でも使わない	12.1%
	分からない	9.2%
(3) 世間ずれ	本来の意味	51.4%
	本来とは異なる意味	32.4%
	どちらの意味でも使わない	7.8%
	分からない	5.1%

年齢別に見ると、「他山の石」では、16～19歳、20代で本来の意味と異なる意味を選んだ人の割合が、本来の意味を選んだ人の割合よりも多い。また、「分からない」は、20代～40代で最も多い割合を占めている。「枯れ木も山のにぎわい」では、30代で、本来の意味と異なる意味を選んだ人の割合が、本来の意味を選んだ人の割合をやや上回る。「世間ずれ」では、40代以上で、年代が高くなるほど本来の意味を選んだ人の割合が大きくなり、30代以下で、年代が低くなるほど本来の意味と異なる意味を選んだ人の割合が大きくなる。

(1) 他山の石 (数字は%)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
本来の意味	16.9	18.5	24.7	25.3	28.5	30.9
本来とは異なる意味	26.5	20.0	15.0	13.1	18.6	20.3
どちらの意味でも使わない	37.3	26.0	32.7	23.9	24.2	13.2
分からない	15.7	30.5	25.8	31.7	24.5	27.7

(2) 枯れ木も山のにぎわい (数字は%)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
本来の意味	41.0	36.0	32.7	41.4	42.8	38.4
本来とは異なる意味	24.1	31.0	33.8	36.1	36.0	38.3
どちらの意味でも使わない	27.7	14.5	22.4	11.7	9.2	6.5
分からない	6.0	14.5	8.9	6.1	6.1	11.6

(3) 世間ずれ (数字は%)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
本来の意味	12.0	27.0	34.6	48.9	60.5	66.3
本来とは異なる意味	60.2	53.0	44.6	36.9	28.2	18.0
どちらの意味でも使わない	15.7	11.0	13.9	7.2	5.2	5.1
分からない	6.0	6.5	4.4	3.6	2.4	7.3

8 言い方の使用頻度

八つの言い方を取り上げ、そのような言い方をすることがあるかどうかを尋ねた。平成16年度調査と平成11年度調査との比較を行うと、以下のとおり。

	平成11年度	→	平成16年度
「 <u>わたし</u> 的にはそう思います」	8.5%	→	15.6% (+7.1)
「鈴木さんと <u>話</u> とかしていました」	16.2%	→	14.6% (+1.6)
「とても <u>よ</u> かったかな、 <u>み</u> たいな……」	13.0%	→	15.0% (+2.0)

※以下は平成11年度にはなかった問い

「とてもすばらしい(良い, おいしい, かっこいい)」という意味で

「やばい」 → 18.2%

いいか悪いかの判断がつかないときに

「微妙(びみょう)」 → 57.8%

面倒臭いことや不快感・嫌悪感を表すときに

「うざい」 → 17.0%

言い方をすることが「ある」と答えた人の割合(性・年齢別, 数字は%)

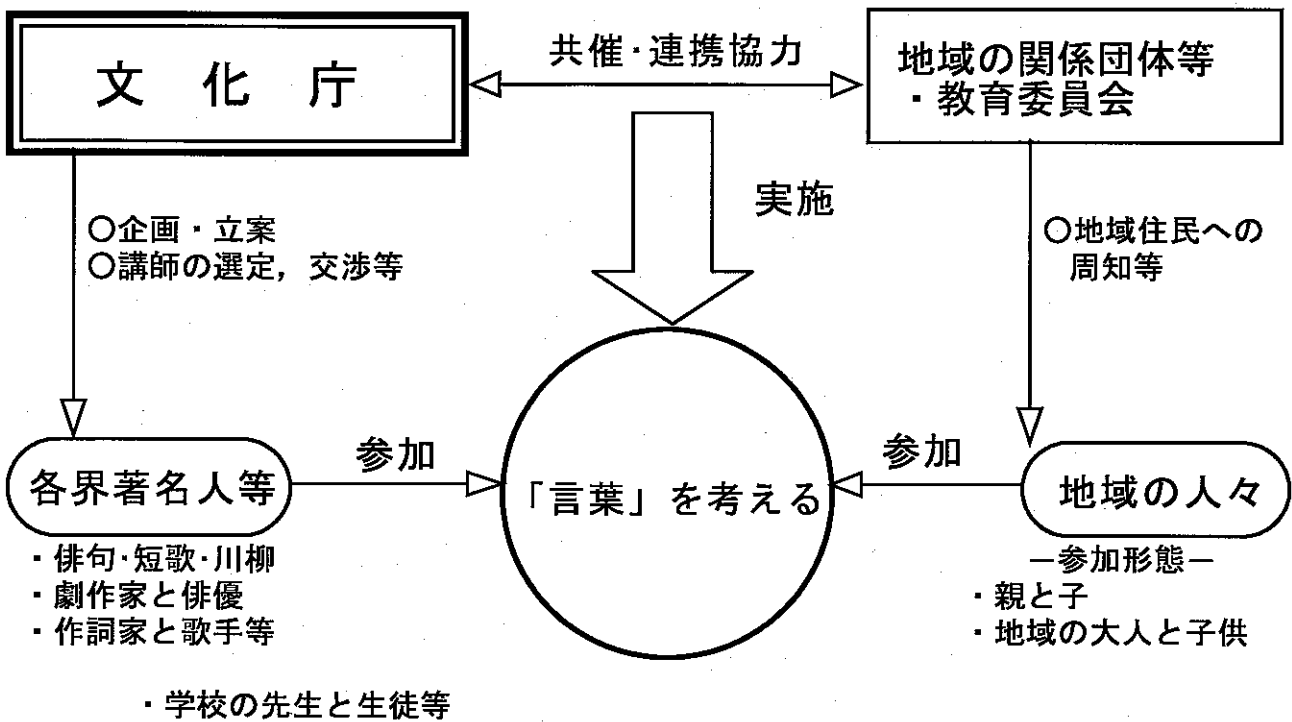
	わたし的には…	鈴木さんと話とか…	良かったかなみたいな	やばい	びみょう	うざい
総数	15.6	14.6	15.0	18.2	57.8	17.0
男性16～19歳	46.7(36.7)	37.8(40.8)	28.9(32.7)	75.6	95.6	71.1
20～29歳	32.6(22.2)	37.1(24.1)	28.1(17.6)	51.7	84.3	49.4
30～39歳	29.5(7.6)	23.7(22.9)	17.3(13.2)	24.4	79.5	26.3
40～49歳	9.2(5.1)	8.5(12.9)	11.3(9.0)	19.9	62.4	19.9
50～59歳	5.7(2.6)	6.8(9.1)	10.9(8.8)	11.5	48.4	3.6
60歳以上	7.5(5.8)	7.0(7.4)	9.5(10.0)	8.1	45.4	1.7
女性16～19歳	52.6(46.0)	39.5(54.0)	34.2(20.0)	65.8	97.4	68.4
20～29歳	44.1(16.1)	42.3(29.8)	34.2(19.9)	53.2	92.8	59.5
30～39歳	25.4(5.4)	25.4(27.6)	26.8(21.2)	23.9	76.6	29.8
40～49歳	14.6(5.2)	13.7(12.9)	13.7(12.9)	14.2	63.5	15.5
50～59歳	5.2(5.5)	6.0(10.2)	11.6(12.5)	9.4	49.4	8.2
60歳以上	7.2(3.4)	5.9(8.1)	6.9(6.5)	3.6	31.2	1.8

※表中の()内の数字は平成11年度調査の結果

性・年齢別に見ると世代差と性差がよく現れている。

「言葉」について考える体験事業

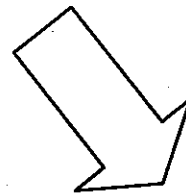
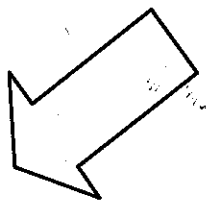
コミュニケーション言語を中心に適切な言葉遣いや言葉による表現等について、各界の一線で活躍している方を講師として、直接指導を受ける機会・場を提供



(文化施設等の場を有効活用)

(例)

- ・演劇の基礎訓練を通して伝え合うこと, 表現することを養う
- ・少ない言葉により情景や心情などを表現する俳句・短歌・川柳作りを通して, 言葉について考える機会を提供
- ・会話や対話が豊富に盛り込まれた文学作品等を役割分担しながら読み進め音声言語の表現力を養う 等



家庭, 地域社会において, 「言葉」について, 考える機会を提供

目的, 場面に応じた正しい日本語を使う意識の高揚を図る

日本語教育の推進について

○国際交流の進展や国内の在留外国人の増大に伴い、国内外の日本語学習者が増加、学習目的が多様化

○日本人との円滑な意思疎通や我が国の文化芸術に関する理解の促進のために、外国人に対する日本語教育は重要

[日本語学習者数]

・国内 ～ 約 13.5万人（平成15年11月1日国語課調べ）

・海外 ～ 約 235万人（平成15年国際交流基金調べ）

（参考）

・外国人登録者数 ～ 約197万人

[永住者 約78万人、非永住者 約119万人]（平成16年末法務省調べ）

1. 地域の日本語教育活動の充実

(1) 学校の余裕教室等を活用した外国人の親子のための日本語教室の開設

地域において日本語学習の機会が少ない外国人の親と子を対象に、学校の余裕教室等を活用した日本語教室の開設をモデル事業として支援する。

(2) 外国人の日本語学習を支援している日本語教育ボランティアの育成

○地域日本語支援コーディネータ研修

地域の日本語支援活動に関わる人々の中で「中核」となり、地方自治体や日本語ボランティア団体などの連携協力をコーディネート（統合・調整）する人を研修・育成する。

○日本語ボランティア研修

地域で活躍している日本語ボランティアに日本語教育の知識、技術、方法等に関する能力向上のための研鑽の機会を提供する。

2. インドシナ難民・条約難民に対する日本語教育の実施

インドシナ難民・条約難民に対する日本語教育を（財）アジア福祉教育財団へ委託して実施。

3. 中国帰国者に対する日本語教育への支援

中国帰国者向けの教材や日本語指導者用の指導参考資料等を作成・配布。

4. その他

(1) 日本語教育に関する調査、文化庁日本語教育大会、研究協議会等を開催

(2) 日本語教育能力検定試験、日本語能力試験への実施協力